

運転時の故障

(3) 一次、二次無電流時の故障

その他タップ切換時の故障検出および外部事故回復時の突入電流でも不正動作の起こらないことなどの考慮が払われている。

XV. 5-3 187 kV DZ 方式

円特性MHO形距離継電器を各相に設置し四国電力系統との系統分離を行なうよう、本継電器の動作に限時継電器を組み合わせて構成してある。

XV. 5-4 自動同期投入装置

異系統同期投入用としては両系統の周波数差および位相差を検出し、CBおよび継電装置のむだ時間を考慮しCB接点閉路時には位相差零で投入する装置が必要である。

また変電所用としては、ループ系統運転時にも本装置で判断して自動投入するようにできていなければならない。

変電所用自動同期投入装置として要求されるこれら各種の条件を加味した装置を完成した。

XV. 5-5 無接点形搬送保護継電装置

これら各種継電装置と時を同じくして電源開発に余半利幹線、新改変電所一長山発電所、および長山発電所一二又発電所間、187 kV 直接接地系1回線送電線の保護装置として全トランジスタによる無接点形、距離方向比較

搬送保護継電装置を納入し、昨年10月中旬運転に入った。

短絡故障時には距離継電器の動作により両端同時しゃ断を行ない、一端非電源時の考慮も払われている。

1線地絡時には单相再閉路が可能となっている。

工場における模擬送電線による各種動作試験および現地での一次試験においても満足な動作を示した。

本装置の仕様の一例を次に示す。

短絡および地絡距離継電器第1段

0.2~1.0Ω (CT二次3A以上)

短絡および地絡距離継電器第2段

0.5~2.5Ω (CT二次3A以上)

短絡外部方向距離継電器

0.5~2.5Ω (CT二次3A以上)

後方偏倚 0~1.0Ω

以上のように、今後、電力系統の複雑化、背後電力の強化に伴い、保護装置の高速化が要求されるとき、この種、無接点動作による継電装置の応用はきわめて意義深いものがある。

また、多回線保護装置の一つとして製作を進めていた四国電力・伊予幹線、3端子2回線搬送保護継電装置が運転に入り、引続き、丹原一西条火力線用3端子2回線搬送保護継電装置の製作を進めている。

本装置の運転開始によりこの経験を生かした多回線継電装置への応用が期待される。

XVI. 家庭用品

Household Appliances

当社の家庭電器製品は、昭和37年も新製品を続々発表し、機種も家庭電器製品のほとんど全部を網らするに至った。

今後も、開発体制がますます整備されるとともに、独自の技術とアイデアを持った新製品を続々発表していく

予定である。以下に昨年1年間に開発された主要な機種を紹介する。

XVI. 1 ジューサー J164 形

(Juice extractor)

ジューサーブームを作った J163 形の改良形で、昭和37年4月に発売された。

従来の形と変わった点は

1) カッターに超硬質焼入れをした軽合金を使用した。

このため従来の形のカッターより強度がずっと大きなものになり、歯の摩耗が早いというクレームはなくなった。ステンレス製のカッターより強度が高くしかも軽合金であるため金属イオンによるビタミンの破壊が少ない。



第 XVI・1 図 ジューサー J164 形
Fig. XVI・1. Juice extractor, type J164

2) フィルタにポリカーボネイト樹脂を使った。

従来フィルタにはサラン織物を使っていたが、これは変色しやすく、熱に弱いため熱湯消毒できないという欠点があった。新形ではポリカーボネイト樹脂のフィルムに多数の穴をあけたものを使うことによりこの欠点を克服し変色せず、しかも熱湯消毒できるようになった。

3) 材料投入口を二つにして使用上の便を図った。

大小二つの投入口のうち、小さい方は、パセリ、タンポポなどのジュースや青汁を作るとき使用され、また一方の口でジュースを作り、他方の口からガムシロップなどを混入させ、ミックスするのも便利である。

以上の3点のほかにも、細かい所に目に見えない改良が施されている。たとえば、ふたとめる締め具のゴムローラの滑りを良くするため心にビニルパイプを入れたり、耐アンバランス性を良くするため、底のゴムブッシュの設計を変え、みぞを切った。

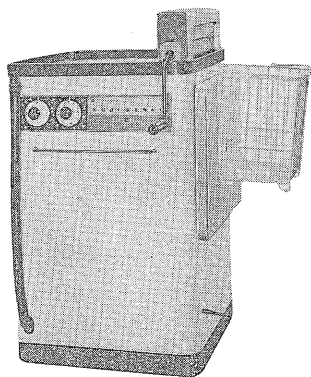
以上のような改良の結果、この新形 J 164 形は他社のジュースに比較して、振動、騒音、使いやすさ、ジュース抽出率などの点において抜群の好成績を取ることができた。

XVI. 2 洗たく機 W 291 D 形

(Electric washer)

当社が特許を持つ独特の洗たく方式「二重噴流式」はその性能の優秀さが「暮しの手帖」でも認められたが、昨年は従来の当社洗たく機の代表機種であった W-291 形を改良し W-291D 形を開発した。

主要機構は従来の W-291 形と同じである（生地を痛めない二重噴流式、他社にないほうろう引き洗たくそうなど）。



第 XVI・2 図
二重噴流式洗濯機
W291D 形
Fig. XVI・2.
Electric washer, type
W 291 D

今度の改良は「使いやすさ」という点に主眼をおき、「暮しの手帖」によって指摘された欠点を全面的に改良した。すなわち

1) スイッチボードのデザインを変更し、タイムスイッチ、強弱切換スイッチを右側から左側へ持って来て、上方へ向かって傾斜をつけた。そのためしぼり機のハンドルがじゃまにならず、操作が非常にやりやすくなった。

2) しぼり機のハンドルにストッパをつけ、しぼっている時にハンドルが抜けるようなことを防いだ。

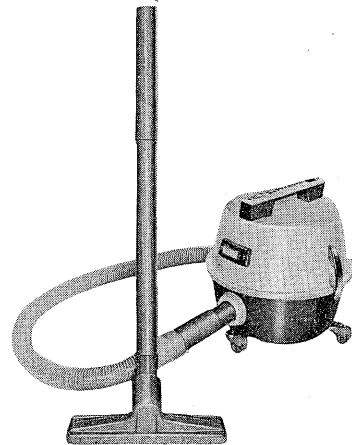
3) しぼり機ローラの径を大きくし、しぼりやすくした（上部ローラ 60mmφ、下部ローラ 45mmφ）。

使う身になって改良が全面的に行なわれた訳である。

XVI. 3 真空そうじ機 SCT 302 形

(Electric suction cleaner)

昨年 10 月に発売された SCT 302 形は SCT 301 形の改良形であるが、昨年 4 月に「日本消費者協会」が行なった各メーカーのクリーナテストの結果で、SCT 301 形は他のどこのメーカーのものより、電力消費量あたりの真



第 XVI・3 図 クリーナ SCT302 形

Fig. XVI・3. Electric suction cleaner, type SCT 302

空度、風量が大きく、また騒音も少ない、ということが証明された。吸引力は、「真空度×風量」で表わされるので吸引力も一番大きいことになる。

SCT 302 形はこの SCT 301 形の優秀な主要部分にさらに改良を加え、使いやすさを目標にしたもので SCT 301 形にくらべ、次のような特長がある。

1) ごみを捨てるべき時期を知らせるダスタランプがついている。

集じん袋にほこりがたまりすぎて集じん能力が低下すると、ランプがつき警告してくれるので、いつも最良の条件でクリーナを使うことができる。ダスタランプは電動機の負荷が大きくなったときに点灯するものであるから、吸入口がつまりたりして電動機に過負荷が

かかった場合の危険信号にもなる。

2) 移動が楽に安定してできる。

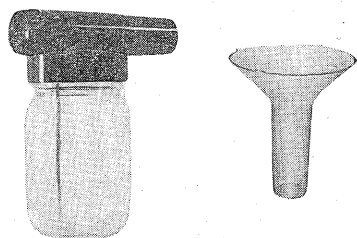
底には回転の軽い 3 個のローラが、ローラ間の有効床面積を充分大きくするようできるだけ離して取り付けてあるので、どんな方向へホースを引っばっても、倒れるようなことはなく、安定して、軽く本体がついて来る。

3) 吸込口にはごみ逆止弁がついているため、万一倒れても、中のごみが外へ出てくるようなことはない。

以上のほかにも、吐出口を斜め上向きにしたため、まわりのごみを吹き飛ばすようなことがなく、またコードが取りはずせるようになっているので持ち運びに便利である。ラジオ、テレビなどへの雑音の防止には特に注意を払って万全を期しているなど数々の特長がある。また付属品も 12 種類そろっているが、その中でも異色なものを二つ紹介する。

1) 霧 吹 器

吐出口を利用して、水の霧吹き、吹付塗装などに使える。



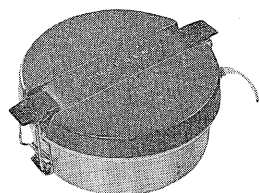
第 XVI・4 図 クリーナー付属品 霧吹き器と捕虫器
Fig. XVI・4. Accessories for cleaner, sprayer and insect-killer

2) 捕 虫 器

天井にとまった“はえ”むらがっている“あり”などを簡単に吸い込んで捕える。

XVI. 4 アイスクリームフリーザ IF 191 形
(Ice cream freezer)

富士アイスクリームフリーザはアイスクリームやシャーベットを非常に早くしかも美味しく作ることができる



第 XVI・5 図 アイスクリームフリーザ IF 191 形
Fig. XVI・5. Ice cream freezer, type IF 191

という特長がある。

その理由は、

1) 容器の形をできるだけ平たく作ったため、冷蔵庫のエバポレータとの接触面積が大きく、冷却効果がより大きい。

2) 独特な形のかくはん翼と強力な電動機とにより、中身がよくかくはんされるので、むらなく完全に冷え、かつ舌ざわりの良い、なめらかなアイスクリームを作ることができる。

そのほか、一度に 720 g (12人分) ものアイスクリームを作ることができる。クリーム容器と電動機部の締めつけに簡単で確実な独特の方法(実用新案申請中)を使っているため、凍りついても、簡単に取りはずせるなど数々の特長がある。

XVI. 5 富士クリーンランプ RG 1201 形
(Ultra-violet ray lamp or sterilizing-lamp)

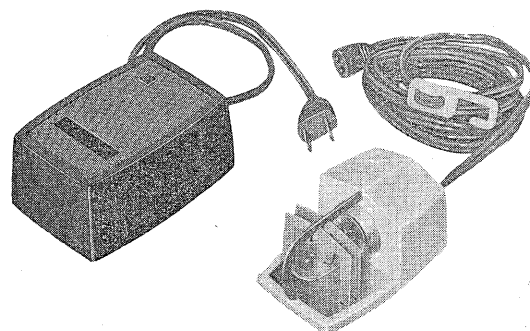
富士クリーンランプは自然の紫外線より約 10 倍も殺菌力の強い、波長 2537 Å の紫外線を出す強力紫外線灯である。

定格入力 7W (紫外線出力 0.05W) というわずかな電力で、約 30~60 min のうちに、大抵の細菌を殺す力を持つ。

また冷蔵庫、食器だななどは使っているうちに独特の臭いが出てくるものであるが、この臭いも細菌によるものであるため、紫外線灯により、消すことができる。

富士クリーンランプはさまざまな所で使うために、できるだけ小形軽量にし、しかも底に永久磁石をつけて、冷蔵庫の内壁、流し台などに吸いつけて使うことができるようになっている。

寝具、医療器具などの殺菌にも便利である。



第 XVI・6 図 富士クリーンランプ RG1201形
Fig. XVI・6. Ultra-violet ray lamp, type RG 1201

XVI. 6 37年度、夏物製品（扇風機、冷蔵庫、エアコン）

('62-model electric appliances for summer, electric fans, refrigerators, air-conditioners)

37年形夏物製品も大はばに機種が増えたが、特に特長のある製品として、冷蔵庫の一部とファンクーラを紹介する。

もちろん、扇風機も、デルタ扇をはじめとして、独特の6極電動機を使ったサイレントファンとして好評を得たし、エアコンも好性能を認められた。

XVI. 6-1 冷蔵庫 R 1005 D, R 1207 SD 形

37年形冷蔵庫は、従来通り上部テーブル、コンセント、庫内温度指示計などの独自のアイデアのほかに、R1005 D 形は自動復帰形の霜取り装置がつき、R1207 S D 形には、ホットガス利用の瞬間自動霜取り装置がついた。

自動復帰形霜取装置はボタンを押すと、除霜が終わるまで電源が入らず、除霜が終わるとサーモスタットが働いて、ボタンを押すまえの定常状態に入るもので、普通に運転している時に働くサーモスタットのほかに、もう一つサーモスタットが入った形になっている。

瞬間自動霜取り装置はいわば「冷凍サイクル」を逆に、エバポレータの中に熱いガスを送り、強制的に除

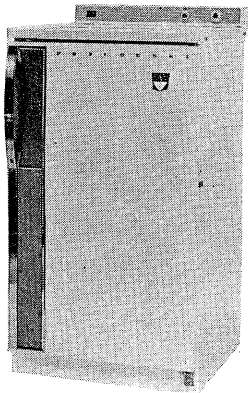
霜するもので、きわめて短時間のうちに除霜を終わることができる。除霜後は自動的に「冷凍サイクル」が正常な状態に戻り、定常運転をはじめる。

今まで、冷蔵庫使用上の大きな障害であった除霜作業をボタンを押すだけであとは自動的に行なえるようにしたのは大きな改良といえよう。

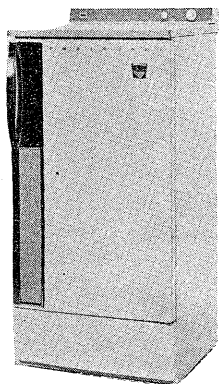
現在発売されている 38 年形冷蔵庫には、このボタンを押すことも自動化し、毎日午前 2 時になると除霜装置が働くという完全自動除霜装置付きの R 106 E 形がある。

XVI. 6-2 ファンクーラ RC 2001, RC 3001 形

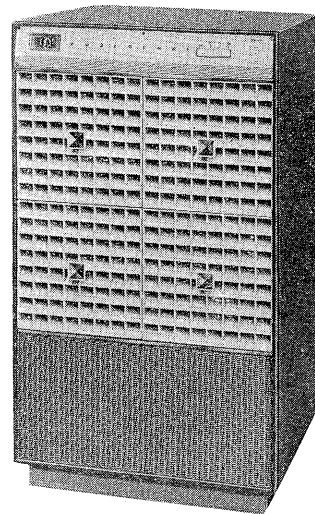
一年中温度の変わらない地下水を利用して、冷房するもので、専用ポンプとの組み合わせにより効果的な冷房を行なうことができる。



第 XVI・7 図
電気冷蔵庫 R 1005 D 形
Fig. XVI・7.
Electric refrigerator, type
R 1005 D



第 XVI・8 図
電気冷蔵庫 R 1207 S D 形
Fig. XVI・8.
Electric refrigerator, type
R 1207 S D



第 XVI・9 図 ファンクーラ RC 3001 形
Fig. XVI・9. Fan cooler, type RC 3001

ファンクーラの特長として、外気温が高ければ高いほど冷却能力が大きくなるということがあげられる。すなわち RC 3001 形で見ると水温と気温の差が 10℃ のとき 2,400 k cal/h であるが、差が 15℃ の時は 3,500 k cal/h となる。これは普通のエアコンにはない特長といえよう。

富士ファンクーラはファンの回転によって冷却コイルにたまった水滴が飛び出さないように、特別なくふうがこらしてあり、風量も押しボタンスイッチにより 3 段に切換えることができるようになっている。

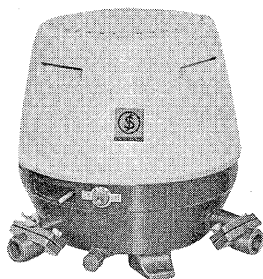
XVI. 7 ホームポンプ PA 851 形, PC 1051 形
(Homepump)

毎年、順調な伸長を示している富士電機ホームポンプ

は、昨年度に浅井戸用の新形3機種の開発により、一層の伸びを示している。

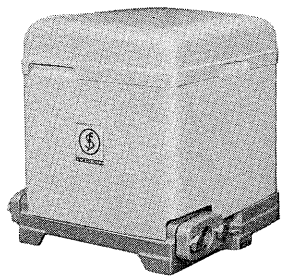
まず、80W、125Wの標準家庭用の2機種がある。いずれも円形のスマートな外観で、吸、送水フランジは新機軸のターレットフランジ(実用新案申請中)を採用し、工事を簡単、安価にしている。その他、電動機保護のセーフティカット付、防寒電球点滅用スイッチ付、あるいは1面操作と、もりだくさんの特長があり、大好評を得ている。

なお、酷寒地用には、凍結の心配なしに使用できるように降水装置付(実用新案申請中)を特別に作っている。



第 XVI・10 図 ホームポンプ PA 851 形
Fig. XVI・10. Home pump, type PA 851

PC1051 形はファンクーラ専用ポンプである。100Wの専用ポンプなのでファンクーラの効果を一層高めており、キュービックタイプのスマートな外観、暖房用温水使用でも高効率などこれについても好評を得ている。



第 XVI・11 図 ホームポンプ PC 1051 形
Fig. XVI・11. Home pump, type PC 1051

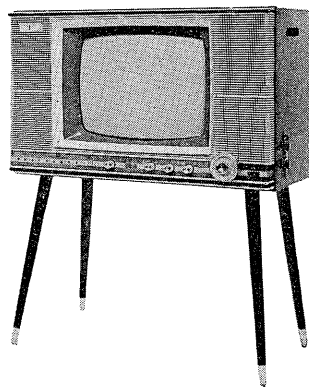
XVI. 8 音響製品 (Acoustic appliances)

当社の音響製品は家庭電器製品の中でも発売が最も遅れていた分野であるが、昨年は音響製品専門の開発体制も確立され、急速に機種も増えるにいたった。当社の強みは同系に多数の音響を専門とする会社があることで、富士通、神戸工業、日本グラモフォンなどの協力を得て今後とも音響製品開発には力を入れていくつもりである。

以下に主要な機種を紹介する。

XVI. 8-1 テレ ビ

昨年はテレビ業界の傾向として、ブラウン管が14形から16形へと移行したのであるが、当社も16形を2機種発売した。

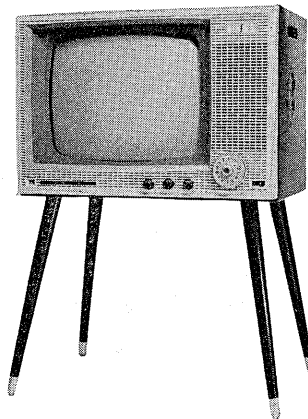


第 XVI・12 図 16形高級形テレビ TF 6-2 S 形
Fig. XVI・12. 16 in. television set, type TF 6-2 S

16形は、ブラウン管の面積が約15%増え、隅が角ばって、画面がほぼ完全な長方形になるのであるが、そのほかに偏向角が 114° になるため、セット自体の奥行きが約10cmも少なくすむという特長がある。また回路の面からみると、水平、垂直出力ともに14形より大きくしなければならない。

TF 6-2 S 形は29cm×9cmという大形スピーカ2個をつけた高級形で、ごう華な木製キャビネットを使い、ABC装置付(自動輝度調節装置)である。前面ガラスには目の疲れのないブルーフィルタを使い、さらにじゃまな反射光を防ぐため平らなガラスを使うなど、細いところに気を配っている。

TF 6-1 R 形は、高級形の TF 6-2 S 形に対して発売



第 XVI・13 図 16形普級形テレビ TF 6-1 R 形
Fig. XVI・13. 16 in. television set, type TF 6-1 R

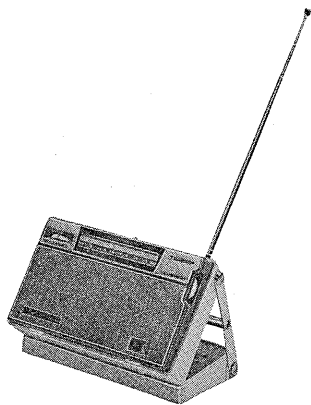
された普及形で価格も安くなっている。また、スピーカは15 cm×10 cm が一つで、イヤホンは二つ使えるようになっている。

もちろん、この二つの機種には、他のすべての機種と同じように、非常に回転の軽い、耐久力の大きい富士プリントチューナが使っている。富士プリントチューナは富士のみが作っているロータリー式のチューナで、特許3件、実用新案4件を持ち10万回の連続回転テストにも合格した、他社のまねすることができない優秀なチューナである。

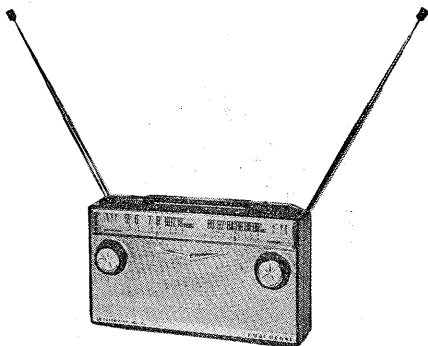
XVI. 8-2 トランジスタ・ラジオ TRS 733 形、
TRF 1200 C 形

TRS 733 形は新しいアイデアから生まれたポータブルラジオで、皮ケースが要らないラジオということを始めから前提して設計されたものである。

すなわち第 XVI・14 図でみるように、机の上で聞ときは表のふたを台にしてしっかり組み立てることができ、持ち歩くときには、表のふたをすと、そのまま、ハンドルを持てばよいようになっている。一見ポータブルラジオとは思えない、スマートなデザインである。ふたをしめた際にはダイヤル目盛、つまみなどがすべて中



第 XVI・14 図
コンパクト形トランジスタ
ラジオ TRS 733 形
Fig. XVI・14.
7-transistor pocket radio,
type TRS 733



第 XVI・15 図 FM付トランジスタラジオ
TRF 1200 C 形

Fig. XVI・15. 12 transistor pocket radio with FM,
type TRF 1200 C

にかくれてしまうようデザインされている。

回路は7石の2バンドで、感度は極微電界級である。

TRF 1200 C 形は今話題のFM放送が聞けるポータブルラジオである。回路は12石トランジスタを使いFM放送用にはAFC回路（自動周波数調整回路）を持っているので、聞いているうちにおこる周波数のずれがなく、いつも安心して聴いていることができる。音質の良いFM放送を楽しむために、80 mmφの大きなスピーカを用い、さらに音質調整回路もついており、好みの音質でFM放送を楽しむことができる。またFM放送の受信を容易にするため、大形のロッドアンテナを第 XVI・15 図のように2個備えている。

電池は寿命の長い単二形を4個使っているため、毎日3～4時間聞いても1か月は完全にもつという経済的なものである。

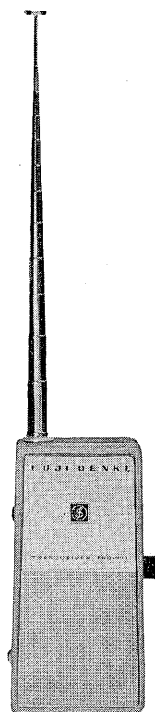
AMラジオとして聴く場合にも、最高の音質で楽しめる最高級のポータブルラジオである。

XVI. 8-3 トランシーバ TRC991 形

27～28 Mcの市民バンド用に作られた市民ラジオである。富士トランシーバは、空中線電力50 mWで受、発信ともに水晶制御発振方式を使っている。

受信部は7石スーパーヘテロダイン方式である。

当社のトランシーバは各社の製品のうち最小で、使いやすいプレストークボタンとともに、気軽にポケットに入れて持ち運びのできる便利なものである。



第 XVI・16 図 トランシーバ
TRC 991 形
Fig. XVI・16. Transceiver, type TRC 991

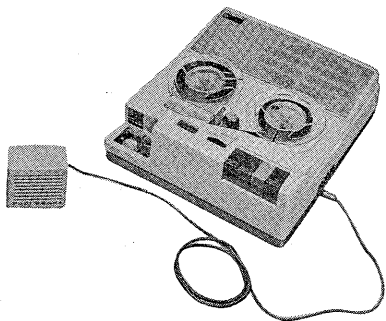
また、固定局としても使えるように設計しており、電池(006P)の代わりに、電源アダプタ(AD91)を使用し、固定局用付属品を使用すれば、安定した固定局として使うこともできる。

通話可能距離は、都市—2km、郊外—6~8km、海上では15~20kmもある。また固定局として使う場合には、外部アンテナを接続すればさらに到達距離をのばすことができる。

XVI. 8-4 テープレコーダ TPT 231 形

全乾電池式ポータブルテープレコーダとして、TPT 231 形を発売した。

トランジスタ式としては最高の音質(80%~10,000%まで±10dB)と最大の音量(300mW 無ひずみ)を誇っている。



第 XVI・17 図 トランジスタ式テープレコーダ
TPT 231 形

Fig. XVI・17. Portable tape-recorder, type TPT 231

数々の特長のうちから主なものをあげると、

- 1) すべて押しボタン方式である。
- 2) どんな位置でも安定して録音、再生ができる。
あらゆる条件で使用できるように設計されているので、逆かさにしても普通に使用できる。肩から下げたの取材などに最適である。
- 3) 録音レベルはマジックメータによって確実に監視できる。またこのメータにより電池の減り具合も同時にチェックできる。
- 4) テープ速度は2種類あり、しかも巻戻し機構が完備されているので使用上大形のテープレコーダと比べてなんの不便も感じない。
- 5) 録音には交流バイパス方式を採用しており、またスピーカーは14cm×8cmの大形を使い、OTL方式を採用しているので、音質は大形機に劣らない。
- 6) 電池は経済的な単二形を6個用いており、電源アダプタ(AD91)も使えるので、非常に経済的である。このほか、特別小形ダイナミックマイクロホンが組み

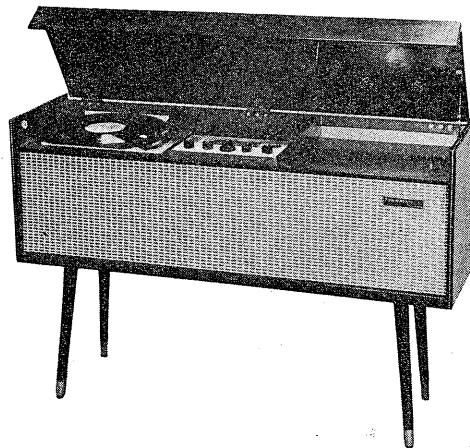
込んであり、音質の向上に一役かっている。

テープは3号リールを使い、ダブルトラックで最長60分録音できる。

XVI. 8-5 ステレオ STS 323 形, STS 522 形, STS 722 形

昨年は3機種を新たに発売したが、3機種とも「富士エコーサウンド」方式を採用し、自然な残響効果を得ている。

STS 323 E 形は3万円台のステレオであるが、20cmの大形スピーカが2個ついており、良い音質を得ている。終段には30A5を用い、出力は1.5W×2である。カートリッジはクリスタル・ターンオーバー式で100~10,000%を±10dB以内におさめている。



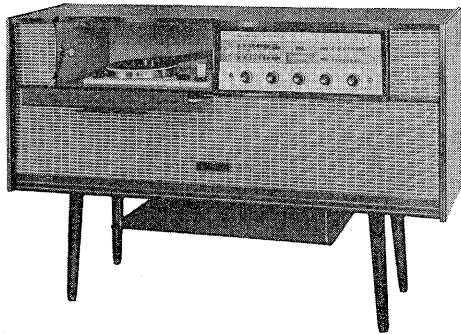
第 XVI・18 図 ステレオエコー付 STS 323 E 形
Fig. XVI・18. Stereo phonography, type STS 323 E

フォノモータも微調整付で、レコードだなのも付属しており、すべて上面でコントロールできる方式を採用するなど、使用の便をいろいろはかっている。

STS 522 形は、今までのステレオに見られなかった全く新しいヨーロッパ風のデザインで好評を博している。5万円台のステレオとは思えないほど種々の機構を有している。すなわち

- 1) チューナ部は短波、中波のステレオが受信できるほか、FM放送も受信できる。音質の良いFM放送を充分楽しむことができる。
- 2) スピーカは20cmの低音用を2個6cmの高音用を2個、計4個を用いている。
- 3) 最良の音質を得るため、カートリッジはターンオーバー方式をやめ、プラグイン方式を用い、SP用とLP、ST用との2個のカートリッジを備えている。
- 4) 好みの音質で音を楽しむため、連続可変形のトーンコントロールがついている。

以上のような、音質に対する細かい配慮の結果、70～15,000%フラットという素晴らしい音質を得ることができた。残響装置も自然な音が出るよう配慮を加え、2.2 sec の残響時間を得ている。



第 XVI・19 図 ステレオ STS 522 形
Fig. XVI・19. Stereo phonography, type STS 522

STS 722 形は最高級のステレオで、終段には、30A 5 のプッシュプル回路を用い、無ひずみ 4W×2, 最大 5W×2 の大出力を得ている。



第 XVI・20 図 ステレオ STS 722 形
Fig. XVI・20. Stereo phonography, type STS 722

ヨーロッパ風の優雅なデザインとともに数々の特長があるが、主なものをあげると。

- 1) チューナ部は中波×2, 短波, FMで、特にFM受信装置は、将来実施される予定のFMステレオ放送が受信できるようマルチプレックス (MPX) 端子がついているので、FMステレオ放送が実施された時には、すぐステレオ放送を聞くことができる。
- 2) ピックアップには、ステレオに最適であるダイナミックバランス・パイプアームを用い、共振を最小におさえている。
- 3) カートリッジはプラグイン方式で、SP, LP, STそれぞれ専用の針を用いている。

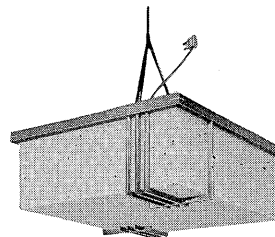
- 4) プレーヤ部には4極誘導電動機を使い、25 cm のスチール製ターンテーブルを用いているため、ワウ・フラッタが非常に少なくなっている。
- 5) ステレオバランスの調整には、細い調整のできるバランスメータを採用した。
- 6) 音量調節にはラウドネス・ボリュームコントロール方式を用いているため、音量の大小によって音質が変化することなく、小さい音でも良い音質で聞くことができる。
- 7) ステレオの故障原因は整流回路におこることが多いのであるが、この STS 722 形では整流器に、当社特製のシリコン整流素子 (DS-1M) を使用しているため、この部分の故障は皆無となっている。
- 8) テープレコーダを接続して、ステレオのテープを再生することができる端子が付属している。

以上のような特長をもつ、ごう華なステレオで、家庭用としては申し分なく、小ホール用としても充分使用に耐えるものである。

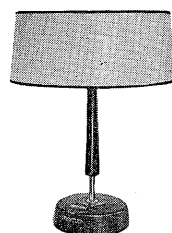
XVI. 9 照明器具 (Lighting equipment)

昨年も多数の機種が発売されたが、なかでも純和風円形蛍光灯の天井吊り器具 (和風ムードライト) はシックで高級な蛍光器具として家庭用に、営業用に好評を博した。骨組みは一本一本厳選された「黒部杉柎目」で組み立て、和紙を模したスパン張りで、純和風のムードを盛りあげている。写真はその中の一機種「春駒」でこのほかにも9種類のムードライトをそろえている。

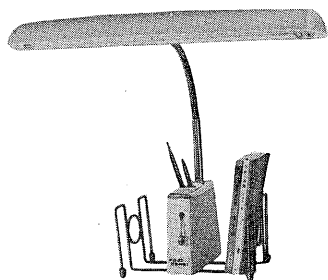
蛍光灯スタンドは JIS の「明視スタンド」規格により製造した明視スタンドを5機種発売した。



第 XVI・21 図
和風ムードライト「春駒」
Fig. XVI・21.
Mood light "Harukoma"



第 XVI・22 図 明視スタンド
Fig. XVI・22. Lighting stand



第 XVI・23 図 明視スタンド
Fig. XVI・23. Lighting stand

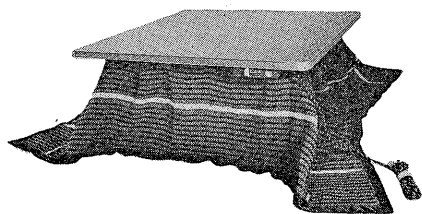
明視スタンドとは元来眼を保護するために考えられたもので、一部分だけ照明するのではなく、全体を柔かく照明するという主旨のものである。

第 XIV・22 図はサークラインの明視スタンドである。黒を基調に金色の装飾と和紙をあしらったシェードで落ち着いた感じにまとめあげている。

第 XIV・23 図は 15W 直管を使用した明視スタンドで、半透明の笠を使用することにより、明視の規格に合わせている。スタンド脚部には本立てとペン立てが付属しており 1 台で 3 役に使える便利なスタンドである。

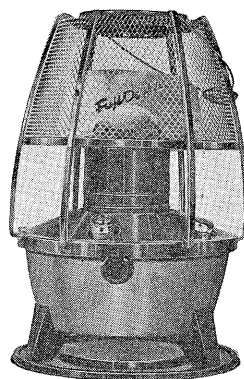
XVI. 10 暖房器具 (Warming equipment)

37 度形当社の多数ある暖房器具のうちから特に、特色あるテーブルこたつ KH902 形と石油ストーブをご紹介します。

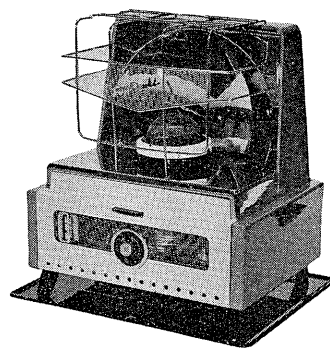


第 XVI・24 図 高級テーブルこたつ KH902 形
Fig. XVI・24. Table type warmer, type KH 902

テーブルこたつ KH902 形は、やぐら式こたつの最高級品として当社が売り出したものである。熱源には 350 W の赤外線ランプを用いているので、赤外線の照射によりすぐ暖まり、かつ、しもやけなどにも効く薬事効果も持っているものである。また専用の毛布が付属しているので、ふとんが要らない。テーブルサイドにはコンセン



第 XVI・25 図
対流形石油ストーブ
OST 221 形
Fig. XVI・25.
Oil-heater, type OST 221



第 XVI・26 図 反射形石油ストーブ OSH 221 形
Fig. XVI・26. Oil-heater, type OSH 221

トがついており、こたつの上で、種々の電気器具が使えるようになっている。また仕上げには充分気を使い、夏には毛布をとりはずして、普通のテーブルとして使えるよう配慮してある。

石油ストーブは 2 機種発売した。対流形の OST-221 形 (第 XVI. 25 図) は最大発熱量 2,200 kcal/h で維持費は 1 時間約 6 円と非常に安くなっている (ガスストーブの半分である)。

燃料タンクは非常に大きく 6 l も入るので連続 19 時間燃焼させることができる。転倒による事故を防ぐため転倒角度は燃料満タンの時に 38°, 空の時に 35° と充分余裕をとってあるので安全である。

また簡単に取りはずしのできる反射板が付属しており、一方に熱を集めたいときには反射板を取りつけることにより自由に熱を集中することができる。

OSH 221 形は反射形の石油ストーブで最大発熱量は 2,500 kcal/h で 4.9 l 入りのタンクを満量にすると約 13 時間の燃焼時間が得られる。

効率、安全性の点など OST 221 形と同様に万全を期している。



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。